15 チャバネゴキブリ雌雄成虫の潜伏と移動

横田 信子1)、高橋 朋也1,2)、辻 英明1,3) [1] (株)フジ環境サービス虫害研 2) 静大・農・応 3) 環境生物研究会] Harboursing and movement of adult German cockroaches Nobuko Yokota, Tomoya Takahashi and Hideakira Tsuji

第46回大会で報じた通り、チャバネゴキブリ (*Blattella germanica* L.) が定着しているシェルター (A) と新しいシェルター (B) を壁で隔てた場合の両者間の成虫の移動は、低密度の時は雌雄ともに (A) を好み、高密度の時は差異が生ずる傾向があった。この性差を検討するために、今回各個体をマーキングし移動を観察した。また、雌雄成虫混在のとき、高密度になると雄がシェルター外に出ることから、一つのシェルターに雌雄一方を定着させた後に他方を入れた場合の行動を観た。その結果、雌は移動しない、もしくは再移動の見られない個体の割合が雄に比べ高いことが確認された。また、雌雄混在時に雌が優先的にシェルター内に潜伏する傾向も見られた。これにより、雌のシェルターに対する執着性が強いことがわかった。

17 石川県における春期のブユ採集成績 金山彰宏

(横浜市衛研) 斉藤一三 (横浜市大・医・寄) Fauna of blackflies in Ishikawa Prefecture in spring Akihiro KANAYAMA and Katsumi SAITO

1994年 5月21日～24日にかけて、石川県下のブユ相を調査した。

調査は県全域にわたる 50 地点で行った。その結果、金沢市の市街地を除く 45 地点で、未同定種を除く 2属 14種が採集された。

最も多くの個体が採集された種は *Simulium uchidai* ウチダツノマユブユで、幼虫、蛹を含め 1,583個体が 39地点から採集された。ついで *Prosimulium yezoense* キアシオオブユが 11 地点から 817個体、*S. japonicum* アシマダラブユが 752 個体 (21地点)、*S. aokii* アオキツメトゲブユが 530個体 (10地点) が採集された。

今回の調査で、*S. shogakii* クジツノマユブユが県内 11地点から 260個体採集されたが、本種は本県からの新記録種であった。

1 地点から最も多くのブユが採集された場所は、県の南部に位置する小松市大杉上町で、7種類合計 407個体が採集された。その中でも *S. japonicum* が多く全体の 46.7% を占めた。ついで能登半島中部の穴水町明千寺で 3種合計 375個体が採集され、そこでは *S. arakawae* が全体の約 64% を占めた。

16 岐阜県における夏期のブユ採集成績 斎藤一三

(横浜市大・医・寄生虫) 金山彰宏 (横浜市衛研) Fauna of the blackflies in Gifu Prefecture in summer Katsumi Saito and Akihiro Kanayama

我々は日本のブユ相について調査を進めている。今回は岐阜県において調査を行った成績について報告する。

調査期間は1994年7月23日から31日までの9日間である。期間中、111地点で調査を行い、93地点から既知種2属19種と未同定種を含む18,481個体が採集された。そのうち、*Simulium* sp. Y. は本県からの新記録種である。

最も多く採集された種は *S. japonicum/kawamurae* の 8,704個体で全採集数の47.1%を占めた。次いで *S. aokii* の 2,521個体 (13.6%), *S. bidentatum* の 2,299個体 (12.4%), *S. suzukii* の 1,422個体 (7.7%), *S. uchidai* の 1,127個体 (6.1%) の順でこれら 5 種で全採集数の 87.0% を占めた。

最も多くの地点から採集された種は、*S. japonicum/kawamurae* で 72地点から採集された。これはブユが採集された地点の 89.9% に当たる。次いで *S. uchidai* の 49地点 (47.8%), *S. aokii* の 47地点 (45.8%), *S. bidentatum*, *S. suzukii* のそれぞれ 46 地点 (44.7%) の順であった。

18 薩摩黒島におけるブユとその対策

佐藤英毅 (川崎市衛生研究所), 田原雄一郎 (JICA・在グ7テマラ), 小曾根 努 (三共) Black fly control in Satsuma Kuroshima island. SATO Hideki, TABARU Yuitiro, KOSONE Tutomu

鹿児島県三島村から黒島のブユ対策についての相談を受け、1988年8月22日～24日、1989年7月1日～5日および1994年6月8日～10日の3回現地を調査した。本島に生息するブユは、ヒト吸血加害種の *Simulium japonicum* と非加害種の *Simulium uchidai*, *Simulium subcostatum* および *Simulium mie* の4種であることが分かった。島内全河川の水系図を作成し、水量測定の後、temephos水和剤を10分間流量当たり1ppmになるように投入を開始した。この処理を3週間間隔で継続し、1994年からは冬期3週間、夏期は2週間の間隔で行っている。この間、初期には定点を固定して薬剤を散布していたが、1994年7月からは時期的な水量変化や河川の形質等により駆除方法を変えて対策を講じた結果、現在はブユ幼虫が概ね減少の方向にある。ご協力を戴いた三島村の諸氏、鈴木博 (長崎大・農研), 斉藤一三 (横浜市大・医), 鶴下町敏 (鹿児島大・農) の方々に感謝申し上げる。